

# 大館に起業力を

県の支援室  
開設に向け

東北の指導者

# 支援のあり方探る

大館市初の地域の取り組み発表

県が大館市に起業支援室（仮称）を設置することを受け、東北各地で起業指導などを行う専門家「インキュベーション・マネジャー（IM）」らのワークショップが14日、市中央公民館で開かれた。秋田職能開発短大や「おおたて映像計画」が人材育成、地域活性化の取り組みを紹介。参加者は事例を通して支援の在り方などを探った。

東北IM連携協議会（植崎博孝代表幹事）、東北経済産業局の主催。大館開催は初めてで、IMや市内の商工関係者ら約50人が参加した。支援室は創業・起業

のほか、新たな事業分野への進出をめざす意欲的な企業に、事務室を安価で提供することが目的。旧正礼ビル新館棟に23年1月開設をめぐっている。管理運営は大館商工会議所が

受託する予定で、IM養成も検討している。植崎代表幹事は「大館にも起業できる環境が整ってきた。ワークショップを通して支援技術のプラスにしてほしい」とあいさつ。吉田光明副市長が「起業は並大抵ではできないが、大館に新たな活力を与えてほしい」と歓迎した。

マに事例発表。地域活性化に向けた映画作りの奮闘ぶりに、参加者は興味深げに聞き入

っていた。JBIAが認定するIMは公的資格でないが、会計・財務に知識のある人や経営コンサルディング経験者が多い。経営判断のポイントや特許申請手続き、会計処理などで助言する。東北で18人が認定を受け、県内は研修中を含め11人が活動している。



東北の起業家指導者らが参加したワークショップ（大館市中央公民館）

日本ビジネス・インキュベーション協会（JBIA）の星野敏会長が、事業支援の現状などを紹介。続いて秋田職能短大の木村陽一校長が「産業マップと人材育成」と題し、従業員の能力を引き出すマップの活用方法などをアピールした。おおたて映像計画の日暮賢信代表は「地域資源を映像化」をテーマ

2010年（平成22年）10月15日（金曜日）

北 陸 新 聞

# 起業支援の手法学ぶ

## 大館市で東北IM連携協WS

### 46人参加 講演や事例発表聞く

## きょう企業など視察

東北IM連携協議会（事務局・花巻市）主催の研修会・ワークショップは大館市は14日、大館市中央公民館で開かれ、東北各地の関係者約50人が講演や事例発表を通して、起業支援の手法などを学んだ。

IMはインキュベーション・マネージャートの略で、事業創成（ビジネス・インキュベーション）のための問題解決に当たる人を指す。米国発祥で、「新しい事業を意図的にたくさん創る」をコンセプトに発展し、現在はハイテク事業の創出、地域開発といった経済振興の手法として世界的に広がっている。

同協議会は、東北地区の産業支援機関などで活躍するIMが一堂に会し、情報や支援策などのノウハウを共有、支援手法を検討しようとする毎年、ワークショップ形式の研修会を開いている。

7回目の今回は初めて大館市が会場となった。同市からは県の委託を受けて、年度内に起業支援室を開設する大館商工会議所の担当者も参加した。

開会行事で、同協議会の柿崎博美代表幹事が「秋田県では年度内に今年二つ目の起業支援室が大館に誕生し、起業者のための環境が整いつつある」と語り、

また、東北経済産業局地域経済部産業支援課の新井純課長補佐が「皆さんの活動で東北地域から多くの起業家、ベンチャー企業が生まれることを期待する」、来賓の吉田光明副市長も「経済情勢は先行き不透明だが、皆さんは起業の手助けをするキーパーソンであり、地域経済活動で果たす役割は大きい」と語った。

この後、ワークショップに入り、日本ビジネス・インキュベーション協会の星野敏会長が「現代BIとIM解説」、秋田職能短大の木村陽一校長が「産業マップと人材育成」と題して講演。このうち、星野会長はアジアの工業化進展で日本のものづくり産業の構造が急激に変化しているとして、ビジネス・インキュベーション（BI）の必然性を説き、BIと既存産業振興策との違いについて、「産業振興は法人を対象に産業の衰退防止を目指すものだが、BI・IMは個人を加えた産業創造が主たる目的。基本理念は『自立』だ」とした。

起業支援の手法などを学んだワークショップ



講演の後、おおだて映像計画有限責任事業組合の日景賢悟代表が地域資源を活用した映画づくりについて事例発表を行った。

同協議会では15日に企業視察を行い、同市白沢の秋田ウッドのほか、旧正札竹村ビルに開設される起業支援室の予定地などを見学する。

2010年(平成22年)10月15日(金曜日)

# 市 起業支援室の概要理解

大館 東北I・M  
連携協 旧正札ビルなどを視察

起業支援の手法などを模索する東北I・M連携協議会（事務局・岩手県花巻市）の関係者は15日、大館市の旧正札竹村ビル

などを視察し、同所に開設予定の起業支援室の概要について説明を受けた。

同協議会は14日、大館市中央公民館で講演会や事例発表などを行った。

この日の現地視察には関係者32人が参加。一行は同市白沢の秋田ウッドを見学した後、旧正札ビルに移動し、12月に屋台

村がオープンするハチ公小径、年度内に県の起業支援室が入居する予定のビル新館棟を視察した。

説明に当たった市まらづくり推進室は、正札ビル活用計画のこれまでの経緯などを紹介しながら、中心市街地活性化と連動する形で展開されているアートプロジェクト「ゼロダテ」の取り組みなどについても報告した。

視察者の中には県出身者もいて、正札ビルを懐かしみながら「今後、ど

のように生まれ変わるのか、楽しみ」などの声が一聞かれていた。



県の起業支援室が開設される正札ビル新館棟の一角を視察する関係者